

THE KANSAI UNIVERSITY BULLETIN

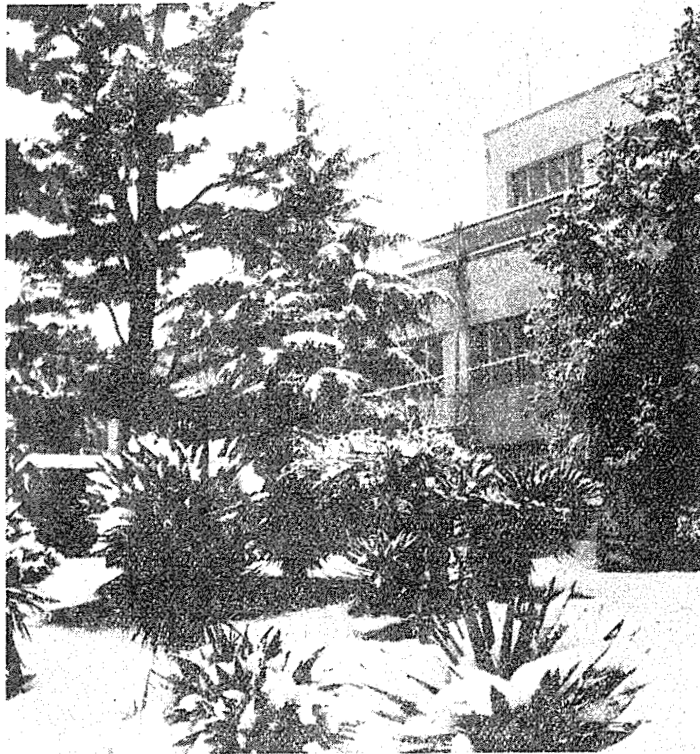
Osaka, January, 15th, 1954. No. 265

關西大學學報

第 2 6 5 号

昭和 29 年 1 月

昭和二十九年一月十五日發行（毎月一回十五日發行）



雪の千里山学舎

關西大學學報局



昭和二十九年を迎えて

白川朋吉

山法・文学舎改
築及び図書館の

終戦後九年、独立日本として三度目の新年を向えたこと、年頭にあたり先づ御喜び申し上げます。昨年は非常に天災の多い年であり、九州、和歌山方面は大変な被害を受けられました。本年はそんな事の無いよう心からお祈りします。我が關西大學にとつて本年は非常に重要な年であります。明年にせまる創立七十周年記念事業の一端として、昨二十八年度には千里山に高等学校々舎を新築、また天六学舎を増築する等種々な事業を行いました。本年はその根幹とも言うべき千里山法・文学舎改築及び図書館の大増築、七十年史編纂等の大事業を為すべき年であります。私は創立当時本学に学んだものでありますが、当時の校友と云つては私の他に二人しか居られぬような最長老の校友として、又一昨年末校友諸氏の御推挙により就任致しました理事長と言う栄職上より、他役員諸氏、学校関係者並びに校友諸氏の御支援を得て、この重責を完うし本学をして名実共に私学の雄たらしめ度いと思ひます。何卒宜敷く御指導御鞭撻の程御願ひ致します。(理事長)

關西大學學報 第二六五号

目次

昭和二十九年を迎えて……白川朋吉(表紙裏)	
最近の白川村……高橋盛孝(3)	
学生就職中間報告……平井三朗(9)	
学内報……(5)	
四学部長改選……大学院部長新任	
学会だより……(6)	
国際法学会……日本神文学会……日本西蔵学会	
学生……(8)	
校友……(10)	
関西大学拡充資金募集要項……(13)	

最近の白川村

高橋盛孝

九月廿三日蒲郡の常磐館で神戸一中の同窓会があった。その帰路を利用して、かねての希望の白川村の大家族の現状を見る為、岐阜で下車し、美濃太田迄高山線にのり、こゝで北濃行の越美南(エツピナン)線にのりかえ、夕方美濃白鳥に一泊、出口屋という木賃宿ながら感じよく、明る日、朝七時、こゝを出て鳩ヶ谷迄行く国鉄バスに乗り、十時頃白川村の中心平瀬で降りた。しきりに降る雨を侵して、今来たバス道を逆に歩き、途中最も宏壯な遠山家を見た。しかし、同家の内部は「甚だ迷惑故、如何なる事情あるも縦覧」をおことわりする旨の立札が立つていたので強いて禁を犯さず、これも亦幾分か、旧体制を保存する上に、大切な役割を演じているものと観念して、ふりかえりつゝ、こゝを去つた。四階と三角形の半階とからなり、間口も廿間位、伊藤写真館の看板がかまつているので、その隣の郵便局できくと「あの写真屋は看板だけだして、どこかへ行つてしまつて、今は居ません」との事、できれば一枚、家の写真を生産にもつて販りたいとの計画も失敗に飯した。こゝの御母衣(ミボロ)が一番たくさん此の種の大建築があるようだ。こゝから、尾神(ヲガミ)に至る間に約十軒ほど、バス道から見えた。平瀬より莊川添いにもいくつかあるときいたが、昔日の面影は全くなく、ほとんど小さく新しいうちばかり、ダム工事の入夫が大勢働いて居り、パンバ

ン宿、パチンコ等凡そ興ざめなものが立ち並んでいる。かや葺の屋根の古風な納屋のドアをゴテゴテと青ペンキで塗りつぶし、パチンコと赤で素人くさい字で書いてある。人は居らず、中古のパチンコ機が五六台あくびをしている。古風な山家(コツバ葺の屋根の上)に、たてよこに丸太をならべ、雪止めと、千木の役をさせている。丸い石がいくつも風よけの為置いてある。の宿の二階から、パーマをかけ、最新の洋装をした女がのぞいており、ジャズのレコードをかけている。勿論、都会の歓楽郷のようにあかぬけもしていないし、山村の静けさもない。いずれ、ダム工事進捗中だけの現象ではあるうが、何だか日本国の縮図を見るようで不快だつた。引きかえして福島来ると、数軒の農家にまじつて四階の大屋が二軒あるが空屋になつている。というのは、こゝにダムが出来、水中に没する為である。いゝ家はいずれ解体して他へ移すものと思つた。関大にも一軒見本にはしいと思つた。総ヶヤキ造りで下手な鉄筋より丈夫で雅味がある。こゝに出来るダムを御母衣ダムと云うが実は福島ダムと云つた方が適當だと土地の人が云つていた。更に引きかえして尾神迄三里余り、雨中を歩いた。かなりつかれた。尾神の尾崎さんのところに立ちより、おかみさんといろいろ話し、二時のバスをまつ間、うちの中を見せてもらい、何もおみやげがないのでピースをいくつ

か置いてきた。同家は、間口十二間、奥行六間位あり三階と三角形の屋根のなやとから成り、人の住んでいるのは最下階だけで、二階は板敷の土間、採光は東西の破風の窓だけで、もとはこゝで蚕をかつていた。今は不景気でこのうちでもほとんど飼わないそうである。三階以上は径五分位の竹のすをはりつめて床としてある。この上を人が歩くこともできる。こゝでもとは、蚕をかつて。今は物置で農具や収穫した馬鈴薯などが雑然と置かれて居る。最下の階は田の字形の間どりで、南側二室は十五畳、北二室はそれぞれ八畳北の一室にはいろいろが切つてあり、すべて板張り、必要な所だけうすべりが敷いてある。その東に土間と玄関、更にその先に南側では綿羊の小屋と便所、北側に土間と板敷の六畳位の部屋、中央に大きないろいろがある。冬、雪の中を飯つてくる人々の為であろう。今は使用してはいないらしい。尾神村にはもと五軒しかなく、今は十八軒ある。よそから来た人が多く苗字は区々である。この家は百五十年以上前に作つた由で総ヶヤキ造り、いかにも手のこんだ普請で、京阪の田舎の家のように素人の手になつたものではない。各柱と軒との間に化粧板をはめ、簡素な彫りが施してある。大家族について聞いたが、明治になる前には長男のみ正式に結婚し、二男以下はよめをもらつても籍も入れず、多くは男が女の家に通つた。女は生家に住みつづけ、子供を幾人も養うので家族はふえる一方で遠山家等は五十人位もすんでいた由で、今では廿人を越すうちほとんどなく、皆独立して一軒小さい家を作り住んでいる。谷がせまく水田は自家用米位しかとれず、大豆、あわ、きび、そば、野苺、山のいも、馬鈴薯等を作ることは平地と異らぬ。雪は山奥で十一月、里に近い所では十二月中旬以後で、特に多いとは云えない。

山に囲まれているので風も強くはなく、河もあふれる事はないと云う。山には杉、松、檜、ぶな、くぬぎ、楓等何もあり、現在では木材が主産物である。トラツクで積出し、いがだは見かけない。山は特に高くはないが、つりがね状で、すつかり森林に蔽われて居り、乱伐しない限り山くずれもない。バスでくる途中、ずつと川沿いの道でかなり深い谷に臨む所もあり、セメントのポールが竝んでいる。幾本かたおれている所を見ると酒によつた運転手は時にこれにつきあつて魂を冷すこともあるらしい。現に来る道で、汽車に乗り合せた運転手の一人も、そんな経験をもつていた。

言語は、短時間の滞在で何とも言いかねるが、白川村はとくに變つて居る由。土地の人同志の会話は、半分位しかきくとれない。民情はおだやかで、道を聞いても叮嚀である。

名残りはつきなかつたが、二時発のバスで牧戸(マキト)迄引きかえし、高山行の私バスにのりかえ、約二時間位で高山についた。寺がたくさんあり、山中で木の多い静な町である。小京都の称がある相だが、いかにもそういう感じだ。翌日城山にのぼつたが、相憎くの雨で全町を見下したゞけで、乗鞍、焼ヶ岳、御岳等の雄姿は遂に見るを得なかつた。飛騨郡代役所あとは今も役所につかわれて居るが、表門、塀、玄關等昔の遺構をそのまま残して居り、いかにも簡素で却つて面白い。

国分寺、朝早く行つたので私一人だつたが、叮嚀に案内され、平家の重宝小鳥丸(国宝)の太刀の実物と模造品とを見せてもらった。片手巻にした編綴(アマミオ)の柄は日本でも珍しいものと云う。三重塔現存のものは文政四年の作で第四回目的ものと云う。本堂は

入母屋單層室町時代の和唐折衷のもの由であるが、最近一千万円を投じて、解体再建中で、米年末には竣工の筈、昔飛騨の匠がこの塔の再建を命ぜられ何と思いちがひしたか、五重の塔にならず、娘の入智恵で三重の塔にまとめた。飛騨の匠ともあろうものが娘の智恵を借りて立てたとあつては末代迄の名折れと娘を殺し今もある池の畔に埋めた。そこから生えたのが、今寺中に鬱蒼と茂つている大「いちよう」の木で、乳が二つついているのはその為だと宿の主人が話してくれた。この話は大変な所があるが、この木は見事なもので、高さ三十五米、圍り十三米位天然記念物に指定されて居り、樹齡千二百年、行基菩薩の御手植とも伝う。一部樹皮のはげた所へ、丁度乳房型の厚い樹皮が垂れ下つた形に残つて居る。今も「乳いちよう」と云つて洗米を供養して祈願すると乳が出ると土地の婦人の間で信仰されている。本尊薬師如来と觀世音菩薩は一本彫成で行基菩薩の造という。これはたしかに見事である。国宝に指定されている。

その他昔の塔礎礎石、古瓦、芭蕉の句碑(藻にすだく白魚やとらば消ぬべし)白川村出身の幕末力士「白真弓」の墓等がある。この力士はアメリカの黒船の来た際、五斗俵を背に四つ、胸に二つ両手に二つ計八俵を運搬し、米人を驚かしたと云う。

土産に一位細工の三猿と抹茶のなつめ等を求め帰路についた。
丁度関ヶ原迄帰つたとき、例の大荒しに会い、汽車は野中の垂井駅に立往生すること三時間、またゴトゴトと後飯りして大垣に夜半につき、寝苦しい一夜を車中やブラットフォームで明し、たきだしの小さいおにぎり一つ。これから京都へ出る迄一睡もせず、汽車弁当は全くなく、僅にうどん二杯たべただけで、荒して

鉄橋の破損した近江長岡、米原間及び近江八幡、安土間を五里程歩き、やつと満員の汽車に便乗、京都についたのが夜十時頃、この汽車が東京から京都へ着いた第一号の列車だつた。

この旅行に当り、中村良之助、佐伯三郎両先生より御親切な御指導を得た。費用は宿は一泊四百円から七百円位、汽車大阪高山間五百三十円、バスは白鳥平瀬間百五十円、牧戸高山間二百二十円位。なお七、八月には、乗鞍頂上迄、高山からバスが一日四回位である。三時間半位かゝり、二百七十円余と聞いている。私は今回は雨の為、中止した。途中に平沢白骨等の温泉がある。御参考の為に。
(昭和廿八年九月廿九日)

(学生闘誌)
9月27日 本学 17-0 於関大
十月に入りいり神戸KRACと対戦次のスコアで制勝した。

10月28日 本学 6-0 KRAC 於神戸
10月31日 // 5-0 KRAC //

//放送部// 尚志館の増改築により、放送部室スタジオ。調整室が、充分といえない迄も一応整備されたことは、今後の放送活動に非常なプラスになること、思はれる。
十一月中の主な活動としては十一月二十八日(土曜)井上義己原作、松垣光構成の放送劇「青春の断崖」を朝日放送(ABC)の提供番組「学園グラフ」を通じて放送、好評を博した。又東西学生放送連盟間のテーマ交換を初め、慶応とテーマを交換した。今後の目標としてアナウンサーの養成に努力する予定である。

鉄橋の破損した近江長岡、米原間及び近江八幡、安土間を五里程歩き、やつと満員の汽車に便乗、京都についたのが夜十時頃、この汽車が東京から京都へ着いた第一号の列車だつた。

學内報

四學部長改選

四學部長の改選は、昨年十月中旬四学部教授会においてそれぞれ選出され、十一月一日付にて理事会で任命された。

法学部長 明石 三郎教授

文学部長 上道 直夫教授

経済学部長 中川庸太郎教授

商学部長 板橋 菊松教授

なお学部長代理には、櫻田誉(法)、壺井義正(文)、沢村栄治(経)、植野郁太(商)各教授が夫々選ばれた。

新學部長略歴

明石三郎法学部長

東北大法卒、北大助手、台北大講師、終戦後帰国、本学専門部教授、法学部助教授、教授

上道直夫文学部長

東大独文卒、本学講師、予科教授、大阪市立医学専門学校及び和歌山県立医学専門学校講師兼務、本学文学部教授

中川庸太郎経済学部長

本学専門部経済科卒、コロンビア大学政治経済学科卒、本学講師、助教授、教授

板橋菊松商学部長

早大政経科卒、京城高商講師、法政大東洋大、立教大、日本大各講師、三重

短大教授、本年四月本学教授、経済学博士

大学院部長新任

前学長岡野留次郎教授の兼任であった大学院部長に、昨年十二月十七日付で法学部中谷敬寿教授が任命された。

私立大學基礎設備助成補助金

本學に拾壹万円

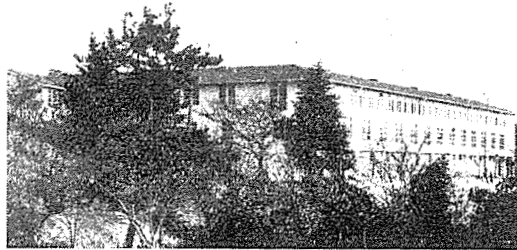
文部省では私立大学において重要な研究が芽を出すよう、その研究活動の基礎を培うため、昭和二十八年度新規事業として、私立大学に対しその研究基礎設備助成補助金を出すことになり、本学にも拾壹万円交付されることになった。

天六學舎増築及び第一高等學校新築

天六学舎増築は昨年四月一日着工九月十五日竣工、設計施工は竹中工務店、建坪七十坪六十延坪三百六十七坪六十九、地下一階地上四階鉄筋コンクリート建にて特に教室は理想的の吸音装置に留意し、地下食堂厨房設備については近代的な器具を備へてある。

次に第一高等學校新築は村野森建築事務所設計で竹中工務店に施工、昨年五月十日着工十月三十一日竣工、鉄筋コンクリート建二階壁体鉄筋コンクリート木造建一部地下建の建坪三百五十二坪五延坪

七百八十五坪一の耐風耐震建築物で、教室内は片方採光で廊下側は壁になり防音装置を施し、学校建築のモデルと称すべき理想的のものである。



新築なれる第一高等學校々舎

人事異動

昭和二十八年九月三十日付
任期満了につき法学部長を解く 教授 木村 健助
任期満了につき文学部長を解く 教授 上道 直夫
任期満了につき経済学部長を解く 教授 鋳方 貞亮
任期満了につき法学部長代理を解く 教授 木村 健助
任期満了につき文学部長代理を解く 教授 廣瀬 捨三
任期満了につき経済学部長代理を解く 教授 高木 秀玄
昭和二十八年十月一日付
法学部長に補する 教授 明石 三郎
文学部長に補する 教授 上道 直夫
経済学部長に補する 教授 中川庸太郎
法学部長代理に補する 教授 櫻田 誉
文学部長代理に補する 教授 壺井 義正
経済学部長代理に補する 教授 澤村 榮治
昭和二十八年十月十四日付
任期満了につき商学部長を解く 教授 今西庄次郎
任期満了につき商学部長代理を解く 教授 河野 稔
昭和二十八年十月十五日付
商学部長に補する 教授 板橋 菊松
商学部長代理に補する 教授 植野 郁太
昭和二十八年十一月十八日付
願に依り学長を免する 教授 岡野留次郎
学長事務代行を免する 教授 木村 健助



学会だより

国際情勢と日本

の立場
法大教授 安井 郁

公海の自由と
統制

広大教授 小谷鶴次

の公開講演(経商学
部講堂)が行われた
翌第二日(十一月

一日)には、国際法、国際私法部会にお
いて
国有化法の国際法的効力

京大教授 田岡 良一
東大教授 横田喜三郎

東大教授 江川 英文

の研究発表(田形教室)があり、その他
理事会、評議員会、總會等があり、なお
府主催の晩餐会が開かれた。

出席者

秋保一郎(金沢大) 石本泰雄(大阪市大) 石川哲

男(東大) 入江啓四郎(愛大) 内田久司(東大)

飯村繁(京大) 衛藤吉(東大) 江川英文(東大)

大友健児(清水商大) 大淵(石衛門(阪大) 大

平善梧(橋大) 大塚正夫(外務省条約局才四

課長) 大畑四郎 岡田昭男(早大) 尾上正

男(神大) 川上太郎(神大) 川崎平一郎(京大)

川端宋人(大学大) 片山金堂(中央大) 神谷龍男

(国学院大) 嘉納孔神大(経塚作太郎(中央大)

金元国(金澤根京大) 桑原輝路(橋大) 桑田

三郎(中央大) 小林龍夫(東京電気通信大学) 小

谷朝次(早大) 高野雄一(東大) 桜井光堂(九大)

斎藤武生(京大) 佐藤由須計(中央大) 清水良三

(早大) 徐成萬(京大) 杉山茂雄(関会図書館

国際法学会

国際法学会秋季大会は、昨年十一月三
十一日、十一月一日の両日に亘り、本学
千里山学舎において開催され、全国より
関係学者が参集し、各小部会にて貴重な
研究発表や公開講演を行つて盛大を極め
た。

第一日(十月三十一日)には、研究発
表として、国際経済部会において
中国経済の一特質 京大教授 柏 祐賢
外交史及び国際政治部会において
プレスト・リトウスタ講和条約の
成立をめぐる

神大教授 尾上正男

があり(田形教室)、続いて

昭和二十八年十一月十九日付

学長に補する 教授 岩崎 卯一

昭和二十八年十一月二十五日付

任期満了につき學部學生部長を免する
教授 山田松太郎

任期満了につき學部學生部長を免する
教授 榎本金次郎

教授 松原 藤由

昭和二十八年十一月二十六日付

本大學學部學生部長に補する
教授 山田松太郎

本大學學部學生部長代理に補する
教授 榎本金次郎

教授 松原 藤由

昭和二十八年十二月十六日付

願に依り大學院部長を免する
教授 岡野留次郎

昭和二十八年十二月十七日付

大學院部長に補する
教授 中谷 敬壽

昭和二十八年十一月十八日付

大學院文學研究科幹事を免する
教授 堀 正人

昭和二十八年十一月十九日付

大學院文學研究科幹事に補する
教授 飯田 正一

昭和二十八年十二月十七日付

大學院文學研究科幹事を免する
教授 中谷 敬壽

昭和二十八年十二月十八日付

大學院法學研究科幹事に補する

教授 中谷 敬壽

教授 中谷 敬壽

教授 中谷 敬壽

教授 中谷 敬壽

教授 中谷 敬壽

教授 中谷 敬壽

教授 中谷 敬壽

教授 中谷 敬壽

教授 中谷 敬壽

教授 中谷 敬壽

教授 中谷 敬壽

教授 中谷 敬壽

教授 中谷 敬壽

教授 植田 重正

昭和二十八年十二月十七日付

関西大学名誉教授の称号を授与します
経済学博士 正井 敬次

教授 植田 重正

教授 植田 重正

教授 植田 重正

教授 植田 重正

教授 植田 重正

教授 植田 重正

教授 植田 重正

教授 植田 重正

教授 植田 重正

教授 植田 重正

教授 植田 重正

教授 植田 重正

教授 植田 重正

教授 植田 重正

教授 植田 重正

教授 植田 重正

教授 植田 重正

教授 植田 重正

教授 植田 重正

教授 植田 重正

教授 植田 重正

教授 植田 重正

教授 植田 重正

教授 植田 重正

教授 植田 重正

教授 植田 重正

教授 植田 重正

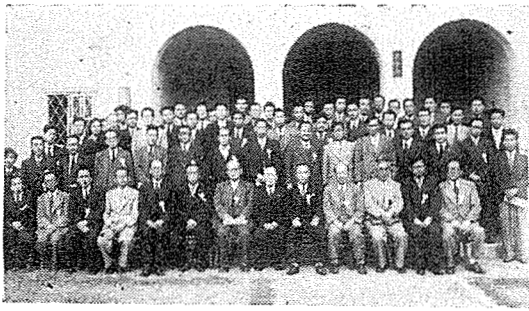
教授 植田 重正

教授 植田 重正

教授 植田 重正

教授 植田 重正

教授 植田 重正



国際法学会（千里山大学院玄関前）

際法係法大講師）須藤次郎（慶大）鈴木萬美（明大）清水唯（愛媛大）大寺堂鼎（京大）田岡良一（京大）田畑茂二郎（京大）田村幸策（中央大）高柳賢三（成蹊大）高橋登（同大）高林秀雄（京大）瀧池良夫（京大）寺沢一（東大）百々巳之助（日大）長尾賢三（京大）根本博（保安研修所兼経済審議庁）長谷川丁（日大）長谷川理衛（千葉大）波多野里望（坂野正高（東京都立大）畑田重夫（名大）林久茂（京大）船越栄一（西南学院大）深津栄一（日大）穂積万亀子（東大）本浪章市（関大）林南（京大）松山正彦（京大大学院）宮崎紫樹（明大）三浦正人（山口大）皆川流（神外大）山田茂（東大）山田録（名大）山手治之（立命大）山下康雄（名大）安井郁（法政大）吉村健蔵（早大）横田喜三郎（東大）良田喜久男（明大）八文学院）李潤賢（京大大学院）伊藤不二男（九六）石田榮雄（早大）川上敬逸（関大）

日本獨文学会

日本ドイツ文学会秋季研究発表会は昭和二十八年十一月二十二・二十三両日開催、全国各大学よりおよそ二百名の会員が参加し、本学大学院講堂において午前十時から午後四時まで真摯且充実した研究発表と質疑応答がつづられ貴重な成果をあげた。ひきつづき五時大ホールにおいて懇親会にうつり、岩崎学長および会長相良守峯氏（東大教授）の挨拶につき、ドイツ大使館文化部長W・レーエル氏の挨拶および大使館よりの記念品贈呈、R・シンチンゲルその他の会員のテブルスピーチがあり八時半頃盛會裡に閉会した。本学文学部としては最初の全国的学会であった。

日本西蔵学会

近時西蔵学の研究が盛になつて公私の大学に西蔵学講座が開かれるに到つたが、案外散沙の如き存在で横の連絡がないところから本学の石浜教授大谷大学の山口学長などの発起で、幸い本学にも故駐伊大使吉田伊三郎氏の西蔵に関する洋書コレクションが入庫したので起縁に、その展覧を兼ねて西蔵学会の結成を企劃し、昨年十二月二十八日日本学大学院にて、関大東西学術研究所、同史学会並びに阪神東洋史懇話会の主催のもとに、西蔵に関する左記の講演会

フランスに於ける西蔵学の成立
大谷学長 山口 益 博士
ネパールの西蔵習俗
大阪市大 川喜田二郎助教授

と本学所蔵西蔵文献展覧を開き、日本西蔵学会「Japanese Association of Tibetan Studies」の結成を見た。そして本学石浜教授が会長に就任され、本部を本学東西学術研究所におくことになった。当日参加者約百五十名、即座に会員四十三名を擁する前記の学会の誕生を見たが、こうした学会は未だ外国にも日本にもない存在で、今後の発展は期してまつべきものがあると注視されている。（既に東京でも、東大、東洋文庫、大正大学などの人々により支部が結成されんとしている。）当日の来会者は京大、大谷大学、龍谷大学、大阪大学、大阪市大、神戸大学、大阪外大、天理大学、高野山大学、和歌山大学、京大人文科学研究所、名古屋大学、立命館大学、同志社大学、神戸経済大学、聖心短大、種智院大学、仏教大学、関大その他各機関の新学研究者約百三十名
役会左の通り

役員
会長 石浜純太郎（関大）
委員 山口 益（大谷大学）
石浜純太郎（関大）
長尾雅人（京大）
酒井真典（高野山大学）

芳村修基（龍谷大学）
佐藤 長（神戸大学）
鷲淵 一（大阪市大）

以下交渉中

岡崎精郎（阪大） 青木文教（東大）
高橋盛幸（関大） 羽田野伯猷（東北大）

（学内報誌）

◇文学部三木治教授は十一月十二日から九大における日本ユーラシア学会秋季総会に出席

◇文学部沢潟久孝、吉永登両教授は十一月十四日から天理大における万葉学会研究発表会に出席

◇文学部中井駿二教授は十一月二十二日から日本新聞学会出席のため東京

◇短大佐伯三郎教授、鯉江城夫助教授は十二月十二日神戸外大における日本商業学会関西西部会商業研究会に出席

昭和二十九年一月十五日発行

関西大學學報 第二六五號

大阪府大淀区長柄中通二丁目二番地
編集兼 久 井 忠 雄
発行人
大阪府北区川崎町三八
印刷所 株式会社 ナニワ印刷所
電話堀川 七三〇二番
電話堀川 三三九三番

大阪府大淀区長柄中通二丁目
発行所 関西大學學報局
電話堀川 三七一七番
電話大阪 二六七七番

一年誌代費三〇〇円（送料共）

学 生

“野球部” 秋の覇権を獲得

今春閉学し苦杯を喫した、本学は、今秋のリーグ戦に同大に一敗、立命に二敗一分、京大にさえ一敗と云う。薄氷を踏む思いで各試合を進めたが、優勝を賭けた関々戦には見違えるばかりの打撃の復調と、優勝への熱烈な意欲で閉学を賭ふり去り輝く覇権を獲得、傳統ある球史に輝く一頁を加えた。

関々戦の戦績及び勝敗表は次の通りである。

10月29日
 関学 0 0 0 0 0 0 0 0 0 1
 関大 0 0 7 2 0 0 0 0 0 0 A 1
 於西宮

10月30日

関学 0 0 0 0 0 0 2 0 0 0 2
 関大 0 2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 4
 於西宮

勝敗表
 1位 関大 9 勝 4 敗 1 分 勝点 4
 2位 関学 6 勝 4 敗 3
 3位 神大 6 勝 5 敗 3
 4位 同大 7 勝 6 敗 3
 5位 立命 7 勝 7 敗 2 分 2
 6位 京大 3 勝 10 敗 1 分 0

“バレー部” 永い間二部で呻吟していた、バレー部は、今秋関西学生リーグ戦に二部で優勝を遂げ、一部最下位校神戸大学との一部、二部入替戦に、2-0で勝利を獲得、待望の一部に入ったが今

後の活躍が大いに期待されている。当日のスコア及び個人得点表は次の通りである。

本学 2 21 | 17
 21 | 11 0 神戸大学

サブ得点 1 3 0 0 0 0 0 0 0 0
 失点 1 2 3 0 0 0 0 0 0 0
 得点 9 6 7 0 0 2 0 0 0 0 0

村立崎本松田井利田原上
 今足嶺山小和村広武菅井林
 (FL) (FC) (FR) (HL) (HC) (HR) (BL) (BC) (BR) 補 //

“サッカー部” 関西学生サッカーリーグ戦は十月四日閉幕し、打倒閉学を目前

指す当部は、今迄ストレートで同大、神大、神商大を降だし、栄冠の道を確実に進んでいる。今迄の戦績は次の通りである。

10月18日

関大 4 3 | 1 | 0 0
 0 同大 於西宮

11月4日

関大 5 4 | 1 | 0 0
 0 神大 於西宮

11月7日

関大 8 4 | 4 | 0 0
 0 神商大 於西宮

“バスケット部”

関西学生バスケットボールリーグ10月11日以降の戦績は次の通りである。

10月17日

関大 80 34 | 46 | 20
 46 | 66 神大 於府立
 体育館

10月18日

関大 70 31 | 39 | 18
 39 | 50 神大 於同大

10月24日

関大 94 34 | 60 | 20
 47 | 67 同大 於神戸

10月25日

関大 78 39 | 39 | 46
 41 | 87 同大 於同大

11月1日

関大 87 43 | 44 | 26
 42 | 68 立命大 於神戸

11月3日

関大 49 32 | 17 | 23
 35 | 58 立命大 於大阪

11月7日

関大 65 37 | 28 | 14
 26 | 40 京大 於大阪

11月8日

関大 65 34 | 31 | 26
 23 | 49 京大 於大阪

“軟式野球部”

関西六大学軟式野球リーグ戦に、春に引続き至難の連覇を遂げ、関西の覇者となった。リーグ戦勝敗表は次の通りである。

9月11日

1位 関大 9 勝 0 敗 1 分
 2位 立命 6 勝 2 敗 2 分
 3位 関学 5 勝 3 敗 2 分
 4位 同大 4 勝 6 敗
 5位 大阪大 3 勝 7 敗
 6位 神戸大 0 勝 9 敗 1 分

9月12日

本学 不戦勝 京大 於関大

9月23日

21 | 0 和太 //

“弓道部” 復活間もない当部は九月末行はれた昇段試合に左の七名ものが昇段を許されたが、今後の活躍がまたれる。氏名は左の通りである。

三段 鎌田益弘 二段 奥西政一
 初段 田中三郎 // 下山章
 // 奥山実 // 安岡正行
 // 田中大二

“馬術部”

第一回大阪府下三大学馬術リーグ最終日は十日、桜川馬術研究会場で行れ次の成績で本学は初優勝をした。

1位 関大 全勝

2位 浪大 一勝一敗

3位 大市大 全敗

“ホッケー部”

関西学生秋秀ホッケーリーグ戦に常勝の本学はその実力を充分に発揮し、次の戦績で優勝、覇権を獲得した。

9月6日

本学 31 | 0 大学大 於関大

9月8日

// 22 | 0 神大 於神大

9月10日

// 16 | 1 阪大 於関大

9月11日

// 25 | 0 立命 //

9月12日

本学 不戦勝 京大 於関大

9月23日

21 | 0 和太 //

(四百下段に続く)

学生就職中間報告

『卒業生の推薦開始は十月一日以降とする』と云う大学側と業界側との新協定に依つて蓋を明けた今年度の就職戦線は期日統一の精が滑出しは頗る好調裡に茲一ヶ月半にして一流大会社の入社試験は殆んど峠を越した処である。本学に於ける一ヶ月半の戦績推移の状況を簡単に中間報告として述べることにする。

昨年度は旧制の最後と新制の最初(国立)とが同時になつたために十三万人と云う大量の卒業生が学窓を巣立つたのである。このために就職戦線は正に混戦錯綜して社会問題としてさえ取上げられる運命の下にあつたとも云い得る程に国を挙げて憂慮せられた甲斐あつたか、各方面の理解ある協力と斡旋とに依つて最初に心配した程でもなく就職浪人を最小限に喰ひ止めたこととは何よりも幸であつた。本学に於ても各方面のお力添えと大学各機関と本人達の努力に依つて三月末迄に九〇%が就職し得たことは一応平均以上の成績であつたと云い得るであらう。然しやれやれと一息つく間もなく早や今年度の就職の波は怒濤の如くに押寄せて担当者は日夜寧日なく心身を捐減らして就職斡旋に當々として活動を続けて

居るのが現状である。

今年度全国の大学卒業予定者数は新制のみであるが約十一万人を抱えて昨年度よりは数に於ては二万人を減じたとは云いながら、各業界の立直りも未だし各社とも昨年より拡充すると云う処は殆んどなく、而も昨年は旧制最後の卒業生だとなつて少々無理をして採用過多に陥入つた会社が多く従つて今年度の採用は手控えすると昨年度よりはぐつと採用数を減じた処が非常に増えて居るので絶対数に於ては寧ろ昨年よりは下回つて来るのではないかと思われ一般的には悲観的の視力が強い。

扱つて本学の現状であるが卒業予定者数は昨年と大差なく二、一〇〇名余である。今年度は文部省の斡旋もあつて大学側と業界側との間に推薦開始期日を十月一日以降(国立大学の一部では十月二十日以降を固執した処もあつたが)と協定が成立したので短期間に求人殺倒し、先づNHKの九月廿七日を皮切りに十月一日には勧銀、帝銀、住銀、三菱銀、大和銀行等の金融機関が一斉に入社試験を行い、次で野村、山一、日興、大和証券等の証券会社が朝日、毎日、産経、日経新聞社等の報道機関、続いて鉄鋼、保険、化学、紡績、造船、商事会社等が連日続いて学生も試験日が重つて去就に迷つたこと

も一再ではなかつたが、推薦開始より約一ヶ月半にして大体一流大会社の入社試験は終つたのである。昨年度に比べると求人会社は可成り増加して一四五社(十一月十日現在)を数えて居るが各会社共に採用手控えのために採用決定者は昨年度同時期に比べて少し上回つて居るに過ぎない、二千名の卒業生を抱えてはまだまだ前途遑遑である

本学の主なる採用決定会社を挙げると毎日新聞、東洋ベヤリング、不動銀行、大和銀行、千代田生命、同和火災、野村証券、山一証券、大阪商事、鐘淵紡績、帝國人絹、東洋レイヨン、アメリカ銀行、兵庫相互銀行、久保田鉄工所、安宅産業、松下電器、大和精機工業、日本合成化学、関西ベイント、千代田火災、日本生命、関西電力、日立造船、藤永田造船、京阪神急行、近畿車輛、島田硝子、其他二十数社(十一月十日現在)

同一会社で四人採用と云うのが最高である。女子学生の就職採用決定は毎年非常に少ないのであるが今年度もまだ極屋製菓に一名決定したのみである。今年度の一流会社の採用方針は昨年と大差はない様だが、多少の変遷は覗かれる。まず各社共健康は大前提であるが思想問題は表面的には昨年程喧しくは言わなくなつた。学業より人物本

位、人的魅力に重点をおいて来た、常識の発達した明朗な人、才走つた人よりもおつとりとした伸びる可能性のある人、組織の中に入つて協調の出来る人等採用方針の中核を学業成績よりも人物にウエイトをかけていることが感ぜられる。と云つて学業成績が中位以下では一流会社では全然問題にならない。

学生達も終戦直後のあの気分的な暗さを取戻し落着いて勉学に全力を向けるようになつて来た。従つて年々に採用試験の競争が激甚を極めて来たにつれて各大学の實力差と云うものが次第に明瞭になつて来たのである。この点は大学も学生も充分に留意して将来の飛躍に只今から備えねばならぬ事柄であり最大関心事であらねばならない。今後は是非共入学当初よりこの心構えで教育に當ることが肝要であり、また学生にもこの自覚を持たすべきである。實力なき学生を社会に送り出す大業は遠からずして没落することは火を見るよりも燎である。外観の整備も必要ではあるがそれ以上に学生に實力をつけて何処に出しても恥しくない他大学の学生に比して聊も遜色なき有能な学生を育成することが何よりも全学を挙げての緊要事であることを今更のように各会社を廻つてその感を強くするものである。(厚生就職課長)

校友

千里山昭八会

昨年七月二十五日(土)午後四時より国鉄「舞子寮」に於て第十九回例会を開催、先づ幹事よりその後の経過を報告、更に二十周年記念に於ける母校への記念品贈呈に対する白川理事長よりの感謝状の披露をした後、先づお互いの健康に祝杯を挙げ一同童心に還えり快談高笑大いに歡を盡して夜を徹し、翌日名残りを惜しみつゝ散会した。当日の出席者左の通り

野田文雄 宮地正一 中江策 中家利国 一瀬高次 木下忠夫 浦野健二郎 瀧野清市 大島武夫 多賀恒一 西村善雄 斎藤正興 宮脇慎三郎 百石義雄 平井三朗

次いで九月十三日(土)午後五時より六甲山の六甲ホテル別館に於て第二十回例会を開催、当日の出席者左の通り

瀧野清市 百石義雄 野田文雄 多賀恒一 結城丙太 斎藤正興 中江策 宮脇慎三郎 大島武夫 浦野健二郎 賀本敏英 木下忠夫 平井三朗

千里山十二会發足

昭和十二年三月卒業の学部出身者が、小西秀夫氏が肝入りで昨年九月五日午後五時より南区宗右エ門町料亭いろはで發起人会を開催し十二期会結成総会の諸般の準備的打合せを為しその実行に着手した。当日發起人として参加したものの左の通り

小西秀夫 永田旭 平田栄福 荻坂操 多田米藏 岡本顯潤 長柄金吾(以上出席) 村上秀吉 内山肇隆 田中米(以上欠席)

更に發起人は十月九日に結成会の案内状と会員名簿を發送して予定通り結成することができた。当日の模様は左の通りであつた。

發起人代表で小西秀夫氏が開会の挨拶を為し、長柄金吾氏が経過報告並びに司会を為して次の事項を決定した。

- 一、会 名 千里山十二会
- 一、会の本部 大阪市北区鳴尾町十番地、長柄金吾方(電話 堀川一三九八番)

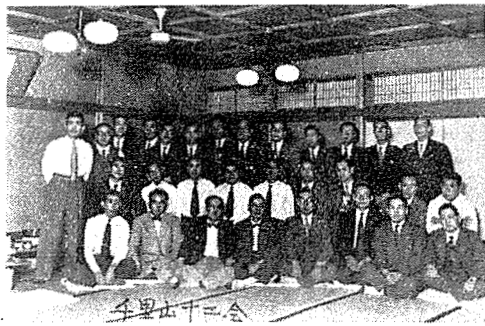
一、世話幹事 法文学部出身 岡本顯潤 永田旭 細井三郎 河井中 桑本重吉

一、経商学部出身 小西秀夫 村上秀吉 長柄金吾 多田米藏

一、世話幹事代表 長柄金吾
一、会合は毎年秋に定時会を開きその他必要の都度集會を開く
当日の出席者左の通り

大寺綱 久井専務理事 恩師側 森川教授 中谷教授 賀米(元)教授 岩井邦治 岡本顯潤 老田唯雄 尾形昌正 河合中田姓吉田 車正治 桑本重吉 小林貞 酒井庄蔵 細井三郎 柴田直一 杉本二(旧姓上田) 多田米藏 田島喜代次(旧姓藤井) 田中作造 永田

旭 中川殿 中尾真雄 長柄金吾 鳴尾 龜巳 平井正一 平田栄福 杉下登夫 横山三郎(原田) (以上文責長柄)



千里山十二会 十二会

双龍会

昭和十四年専門部一部卒業生で結成されて居る同窓会「双龍会」は昨年十一月三日午後六時上本町六丁目グレル・パールズで秋季総会を開催、集る者二十有数名、幹事井上隆君の挨拶に始まり会員それぞれ近況を語りあい学生時代のなつかしい思い出はいつまでも盡きなかつた。

昭六会

昨年十一月九日(月)正午より近畿財務局長より大藏省大臣官房室附に榮転のため、十一月十日(火)赴任する吉橋鐸美君の送別会をスポーツマン・ホテルに

おいて開催、

十一月十日(火)正午「ハト」で赴任する吉橋鐸美君のため、昭六会有志代表者、駅頭に集合し行を壯した。

十二月十七日(木)午後六時よりスポーツマン・ホテルにおいて、二八年度掉尾の昭六会総会を開催、集る者二〇人。会員の久井専務理事より、母校發展の模様の話あり、且つ、七十周年記念を期して寄附金募集の企図の發表があつた。

集まる者一同、母校のいやまず發展を喜び後一同寄附金の世話役を選ぶことを議し、とりあえず金老万四宛の寄附を申し合せ、それぞれ筆を染め、盛會裡に散会。尙当日の参會者は次の如くである。

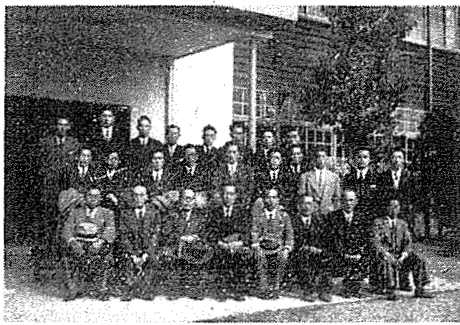
久井専務理事 今井憲夫 神木彦次郎 有賀司郎 吉野昌平 浅本俊一 上野俊彦 岡部俊吾 喜根勘治 楠井文雄 斎藤善三 寺田伴嗣 西口権四郎 福原菊治郎 三谷久男 門田文三 吉川敬一 藤井兵蔵 中村武一郎 佐伯三郎(願不同)

滋賀県支部結成

滋賀県に於いては過去校友組織が一部有志の間でもたれていたものであるが、今回此等有志と現役在學生(県人会)が中心になつてこれを全県的なものにしよると、此処に十一月十五日午前十時より大津市立中央小学校に於いてその結成式が挙行された。当日学校側より専務理事安井校友課長が出席、大学の近況将来の見通し等に付いて説明あり、最後に母校

関西大学の発展の為に出来る限りの努力をおしまぬ事を誓い合い成功裡に閉会した。

- 当日出席者(順序不同)
- 会長 信正 義雄(弁護士)
 - 副会長 上田 武雄(公証人)
 - 上田 啓次()



滋賀支部

徳島支部總會

「関西大学の夕」の開催を機会に校友会徳島支部の総会を昨年七月二十八日午後四時から徳島駅前デイベウで開いた。來徳の諸先生たちは高知からの帰途でいささか疲労のようであったが、母校の充実発展ぶりなど近況の御説明があり校友諸君の意を強うするものがあつた。

「関西大学の夕」が午後七時から開かれるので会は約一時間ほどの短時間で終了。

鐘秀会發足總會

過般より懸案の鐘紡在勤者並家族を一丸とする全関大卒業生による結成發足總會が鐘秀会の名称も誇らかに昨年九月十八日午後六時より鐘紡淀川工場西クラブに於て和氣瀧々裡に行はれた。当日大学側より久井専務理事並に安井校友課長出席、専務理事より今後の学校経営の方針について報告あり、次いで本会会長より会員を代表して今後一層本会の充実を計り母校との接触を密にしてその発展に盡力するとの挨拶を行い懇談会に移り、欲談致時間無事終了散会した。

役員並当日出席者氏名左記の通り

- 名譽会長 山田 実
 会長 寺本利夫 佐伯五郎
 幹事(兼會計) 榎木好一
 幹事 三口 實雄 寺田久男
 梶川礼一 関目節雄
 佐藤才治

出席者

- 佐伯五郎 木本猛夫 三口實雄 田中嘉市 三隅田 穂介 梶川礼一 浅生秀保 小山俊夫 榎木好一 寺田久雄 坂手正平 林秀治 関目節雄 佐藤才治 安田良徳 水野賢輝 渡辺栄一 柴尾八郎 影山修典 中川正信 近藤一成 林茂

岸和田支部總會

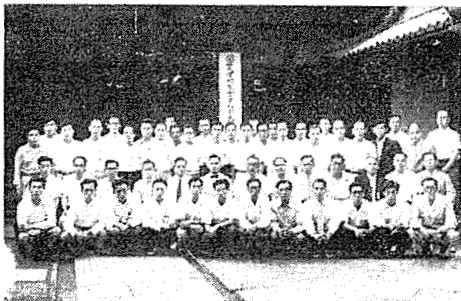
昨年九月二十三日午後一時より岸和田市五軒屋町西方寺に於いて当支部改組發足總會を開催、会則審議、役員選挙等議事終了後懇親会に移り盛大裡に終了。

会員總數 一六〇名

当日出席者 五二名

役員として

- 支部長 辻野新一
 副支部長 伊藤増一 森田 森
 幹事長 岸田久馬



岸和田支部

阿倍野支部第一回總會

先に成立を見た校友会阿倍野支部は本年度第一回の秋季総会を区内の阿倍野王子神社集合場で昨年九月三十日午後五時より開催し、支部長挨拶の後、二、座長選任し、引続き議事に入り自己紹介の後三、諸般の報告を副支部長より行い、四會計報告、後白川先生を阿倍野支部顧問に推薦して閉会。阿倍野支部及出席者左記の通り

- 支部長 江村至身
 副支部長 鈴木武夫 小島龍太郎
 會計監事 上西栄万 黒沢五郎
 幹事 小林金次郎 篠崎 駒次郎
 " 谷口秋雄 長谷川 博
 " 秋山 剛 高田 明
 " 寺本 寛
 大学側出席者 矢野常務監事
 久井専務理事 安井校友課長 秋山 剛
 出席者

- 小林金次郎 竹中恒雄 三木芳男 小島龍太郎
- 小久保実 白川朋吉 黒沢五郎 河合中 清瀬英一 多田栄一郎 中本勇 若井伝次郎 松谷哲蔵 加藤宏 田中崇宣 吉田憲治 東田良幸 鈴木武夫 広岡正則 井上博 長谷川英雄 竹田繁七 寺本寛 松田保 樋口哲四郎 中村公男 竹内顯 増田房治郎 鎌田嘉之 辻見重行 篠崎駒次郎 江村至身

東住吉支部秋季總會

関西大学校友会東住吉支部では、昨年十月十一日午後二時より国鉄阪和南田辺

駅前一品香において、昭和二十八年年度第二回(秋季)総会を開催。集うもの五十

一名来賓として、母校より白川理事長、久井専務理事、矢野常務監事、安井校友課長を迎え、会則一部変更(森幹事)、経過報告並びに顧問推薦(平野副支部長、会計報告)小泉副支部長等を略して、直ちに学校側

白川、久井、矢野各役員より、夫々激励的な挨拶と祝辞が述べられ、顧問團を代表して、当区選出市会議員中石清一氏及び松井剛氏の挨拶、支部長の謝辞のあつた後、歓談後盛會裡に午後八時散会。因

に当日推薦した顧問及び出席者左の通り
顧問
中石清一 松井剛 坂井三郎 坪田吾一 米田恒治 得居滿 金子金次郎 石原孫市 南利三 鈴木庄太郎 北本野一郎 小出春蔵 長沢清兵衛

出席者
白川理事長 久井専務理事 矢野常務監事
安井校友課長
中石清一 松井剛 石原孫市 得居滿 坪田吾一 関矢貫一郎 平野精造 小泉博之 深井敏雄 樋口衛 森秀蔵 山田慶一 中村平治郎 吉川忠興 大隅成太郎 樋口陽一 河崎義雄 橋崎芳造 原登昌 松本教一 内海利男 阪田清治 柳内系 香山俊夫 沢田康治 田中四郎 喜多芳明 岡田哲夫 松本重治 村上吉守 置田徳次郎 榮清経 青木政雄 被内國二 島山寛 山中善男 奥田富士夫 松本重治 橋本正晴 光木秀夫 渡辺幸夫 多田重城 浅野時男 井上雄司 山上佳久二 樋口学 秋山剛

千里山十期会

千里山十期会昭和二十八年秋季総会は遠く東京、富山、岐阜等より馳せ参じた同期生を含め、昨年十一月二十八日堂島「一頂」料亭に集い、母校の久井専務理事より母校近況、将来の計劃等の説明あり、続き会員矢野常務監事の挨拶、後行われた本席の主目的の一つたる母校拡充資金募集も予想額をはるかに超え、世話人の期待を嬉しく裏切つてとまどわせ、盛會裡に幕を閉じた。

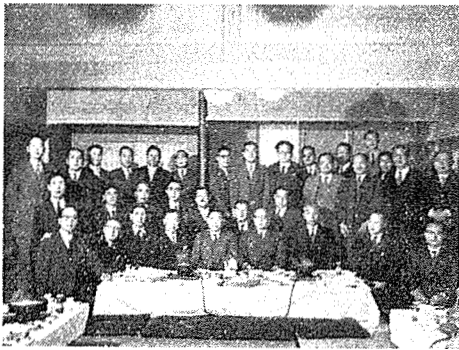
出席者
久井専務理事
塚本義昭 竹沢喜代治 小島龍太郎 高久直信 長谷川清一 矢野文雄 河合中 板本金次郎 山田耕一 藤本操 江里口春志 咲山保男 田中巧 横生真玄 野間秀泉 河内兼三 福岡彰郎 川澄秋一 森下善雄 中山巖 川波芳雄 岡正岡作

出席者
松谷連哉 柳田栄次 田中寿蔵 山内敬一 山中輝司 安田倫蔵 戸田清一 木間孝男 永井政治 重松頼義

東京支部總會
歳末押し迫つた昨年十二月十一日(金)午後五時より東京支部では京浜一の料亭大森海岸松濺本店に於て忘年懇親会を兼ねて二十八年度総会を開催、当日は岩崎新学長を迎へる予定の処、急病のため特に久井専務理事、板橋博士の御出席を願ひ、支部会員四十一名の多数参集があつて盛會を極めた。先づ香西副支部長開会の辞があり中村幹事より岩崎学長、白川理事長のメッセージ朗読発表があり、深く一同に感銘を与へた。次に福田支部長の経過報告及び挨拶があつた。

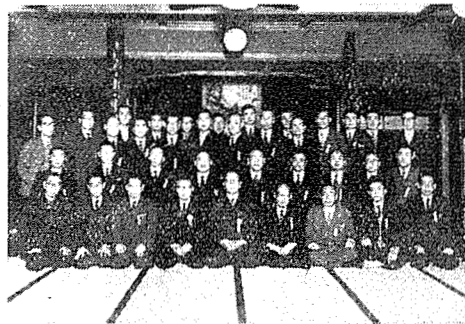
久井専務理事より母校内外の近況報告及大学経営の方針、増築拡張計画に対する全校友の協力方を強く要望され並に來春卒業の学生就職の斡旋依頼等があつた。次に福田支部長より東南アジア、歐洲各国視察の有意義な土産話について各人自己紹介をかね大学側に対する活潑な意見が続出、和氣満場に溢れ、午後九時半盛會裡に散会した。

向当日の出席者左の通り(順不同敬称略)
大学側
久井専務理事 板橋教授
支部側
小西藤一 梶岡市 渡田昇一 大岡親太郎 弓削多義郎 台座輝男 中山幸市 佐野利三郎 山田昇 香西政市 堀貫朗 村上誠一 板橋菊松 中



十期会

村簡吉 井口一 菱哲珍 平岡哲道 門田俊大島幸太郎 西垣安夫 西川正一 田辺明四郎 村崎正幸 森本定雄 筒井淳造 知孝二郎 石原義三 川越武明 新井忠二郎 山口栄治郎 添田健彦 植田八郎 鈴木康之 島海正夫 伊藤茂木原恵商 岸副且 丸物彰 三枝芳郎 田中敏衛 福田繁芳



東京支部

神戸関大クラブ新發足

神戸支部は旧臘十二月五日午後三時より神戸商工会議所に於て、母校より白川理事長、久井専務理事、森川理事、西尾西村副監事、安井校友課長を迎えて昭和二十八年度の定時総会を開催。出席者九十七名、向井副支部長の開会の辞に始まり角田支部長の挨拶、白川理事長、久井専務理事より夫々千里山並に天六学舎の拡充計画、大学の経営方針、将来の抱負等に就て説明あつて、本總會の議事に移

り終戦直後再建した神戸支部を發展の解消し、神戸関大クラブを新發足するに當つて、理事監事を詮衡し、決定した理事中より理事長及常務理事を互選したが、新役員は左記の通り

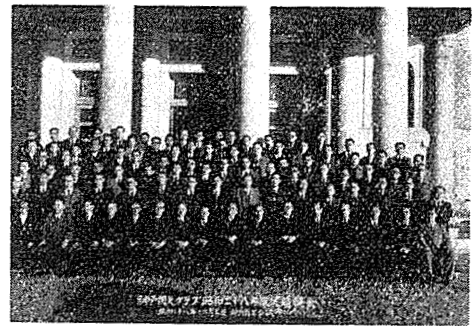
理事長 山崎敬義
 常務理事 水本信夫 星野正身 向井裕亮
 理事 土井美弘 難波方 岡田退一 小山平治 山本善治 片山治治郎 中江秀実 藤原忠 藤又雄 東精龍男 山本寛二

監事 吉野正行 齊藤国臣 石井豊彦
 水本千代松 橋本太一 瀧部清市

前支部長角田好太郎氏に感謝状贈呈、角田氏より過去を顧みて感極つた辭任の挨拶の後、神戸関大クラブとしての初代理事長山崎敬義氏が万雷の拍手を浴びて就任の挨拶を述べられた。規約に基き理事会の議を経て山崎理事長よりクラブの顧問として原田鹿太郎、安井栄三、角田好太郎の三氏を委嘱せられた。

次で森川教授より「金の経済と物の経済」に就て講演あり、現下中小企業の金融問題に深い関心を持つ者にとつて多大の感動を与え、和やかな雰囲気の中に名残を惜しみつゝ午後八時半散會。

当日の出席者は左の通り
 大学側
 白川理事長 久井専務理事 森川理事 西尾監事
 西村監事 安井校友課長
 クラブ側
 片山治治郎 貴客喜作 池田昭 植田健 長田隆 池田隆 難波方 井沢国雄 豊島孝次 向井裕亮 石



神戸支部

井豊彦 小川立朝 小倉修 浜尾文明 東精龍男 多賀恒一 山本寛二 田村光嘉 阪田啓二 瀧部清市 吉川良信 黒田一男 川輪勝博 上東秀雄 中島昭夫 稲田正典 尾形旨正 角田好太郎 赤井定雄 古賀八郎 東原秀信 日置敏己 大森敬義 山本善治 山崎敬義 赤羽正夫 榎本昭長 井彦五郎 達川元一 木下照夫 小山平治 片山勝 木村功 藤原忠 林隆之 川野正義 高原博和 氣安雄 阿佐美久雄 浅野栄八郎 藤崎博士 止本龍己 西光健次 矢野新太郎 正木大次郎 孫葉正剛 森知己 大田正己 吉田正幸 中藤幸太郎 西田健 木下正一 水本信夫 西本山治 古田真澄 今岡孫磨 香川直行 岩本信正 山本鎮郎 岡野重三郎 安井利一 三佐藤岩夫 堀地寿三 橋本太一 財前守夫 箱根三郎 結多治三郎 中村勝夫 竹谷益一 早瀬温之 藤又雄 水本千代松 大野幸雄 中江秀実 藤井八郎 松下幸三郎 中橋徳吉 田村房雄 坂本繁幸 安井栄三 渡邊通男 住江敏夫 以上九十七名
 (願不同敬称略)

關西大學擴充資金募集要項

- 一、予定金額 金五千万円
- 一、一口 金壹千円以上
- 一、御送金は銀行振込用紙を以て全国の左記關西大學取引銀行本・支店へ、或は振替貯金(大阪壹貳八七五番)又は御便利な方法で關西大學會計課宛御願致します。
- 一、神戸銀行梅田支店・三和銀行天六支店・住友銀行天六支店・住友信託銀行本店 泉州銀行大阪支店・大和銀行天六支店・帝國銀行天六支店・日本物業銀行梅田支店・安田信託銀行大阪支店(送金先銀行五十音順)
- 一、切期日は一應昭和二十九年十月七日と予定致します。
- 一、寄附者の氏名は、關西大學學報誌上に順次發表致します。

關西大學擴充資金募集は大藏大臣の承認した指定寄附金であります

今回大藏大臣より左記等の通り、本學擴充資金募集の寄附金について、法人税法第九條第三項但書の規定に該當する寄附金としての承認を受けました。普通の寄附金であると、法人税法第九條第三項本文によつて、法定限度を超過した場合、その超過額はその法人の損金に算入されないから、法人所得に計算の上、課税を受けることになるのですが、本學の募集する寄附金は法人税法第九條第三項但書の「指定寄附金」の承認を受けているので、寄附者である会社その他の法人は、その寄附金については金額の如何に拘らず、これを損金として認められますから税金の対象にはならないのです。この指定寄附金は昭和二十五年大藏省告示第五一〇号第三号昭和二十六年大藏省告示第五五二号に該當するもので左の通りになっています。

「学校教育法第一条に規定する大学、高等学校、中学校又は小学校の敷地、校舍その他附属設備を施設する為に學校法人又は民法による財團法人に對してなす寄附でこれ等の法人が寄附金の募集について大藏大臣の承認を受けた日から一年以内に支出されたものゝ金額」

昭和二十八年十月八日
 學校法人 關西大學
 理事長 白川 朋吉殿

大藏大臣 小笠原三九郎
 昭和二十八年九月二十二日附で願出があつた寄附金については法人税法第九條第三項但書の規定に該當する寄附金として承認する。

近頃各種の寄附金募集が多いのですが、折角好意ある御寄附をした会社は、これを損金として経理処理したのを、稅務署で損金否認して利益加算し課税を受ける例は多いのですが、本學のは前述の如く大藏大臣の承認した「指定寄附金」でありますから、損金を否認される心配はありません。何うぞこの点、特に御理解を賜りとう存じます。

感謝録

別項記載の通り、母校創立七十周年記念拡充資金寄附を募集致しました処、その趣旨に御賛同下さいまして陸續左記の通り御寄附をいただきました。一月十九日迄に拝受しました御寄附者の芳名を、爰に録し、謹んで感謝の意を表します。

昭和二十九年一月

学校法人 關西大學

關西大學七十周年記念

拡充資金寄附者芳名(二)

昭和二十九年一月十九日現在(順序不同、敬称略)

金貳拾萬円也

住友信託銀行株式会社

金五萬円也

武田藏之助(評議員)

金參萬円也

山崎敬義(校友会神戶支部長)

金壹萬円也

永井 芳一(昭9大法)

金壹萬円也

木村 秀吉(在学生交見)

金五千円也

谷口 隆佳(大15大法)

金參千円也

江尻 慈郎(在学生交見)

金參千円也

西村 誠一(在学生交見)

金參千円也

松本 つゆ(在学生交見)

金式千円也

水谷喜三男(在学生交見)

金式千円也

下山 二一(在学生交見)

金式千円也

岩見 実(昭14專二商)

金式千円也

村田俊一郎(昭26學一商)

金式千円也

川端 勇(在学生交見)

金式千円也

真柄 英吉(在学生交見)

金式千円也

竹内理一郎(在学生交見)

金式千円也

奥本 衛一(在学生交見)

金式千円也

井野 藤吉(在学生交見)

金式千円也

丁野 忠春(在学生交見)

金式千円也

久保 岩男(在学生交見)

金式千円也

和久田二郎(昭16學一經)

金式千円也

住岡 藤一(昭14專二經)

金式千円也

楠田 寅三(昭5專法)

金式千円也

中尾 宣雄(昭12大經)

金式千円也

山脇 修(昭18專一經)

金式千円也

森 正十(昭25大政)

金式千円也

藤野 春三(昭7大經)

金式千円也

後藤 正身(昭10大法)

金式千円也

原田美都枝(昭26學二團)

金式千円也

小倉喜八郎(昭18專二商)

金壹千円也

今仲三木雄(昭28專二商)

金壹千円也

竹中 安太(在学生交見)

金壹千円也

平岡 巖(昭26學二團)

金壹千円也

大城 勇造(在学生交見)

金壹千円也

佐野 広治(大6專法)

金壹千円也

島津 徳三(在学生交見)

金壹千円也

藤田 哲夫(昭8專二法)

金壹千円也

松原 やの(在学生交見)

金壹千円也

勝間五十吉(昭14大法)

金壹千円也

神谷チヨ(在学生交見)

金壹千円也

大川原与一(昭9專二經)

金壹千円也

平田 泰造(在学生交見)

金壹千円也

伊藤 保(昭17專二經)

金壹千円也

宮崎 八郎(在学生交見)

金壹千円也

延広 一明(昭28學一商)

金壹千円也

吉川 錦治(在学生交見)

金壹千円也

吉本 房造(昭10專一法)

金壹千円也

山岡哲志士(在学生交見)

金壹千円也

山下 勇次(昭16大政)

金壹千円也

伊賀 本松(在学生交見)

金壹千円也

工藤 正義(昭24大法)

金壹千円也

溝口 主雄(在学生交見)

金壹千円也

野村 功(昭14大商)

金壹千円也

野村 富繁(在学生交見)

金壹千円也

河内 啓三(昭17大商)

金壹千円也

佐藤 高夫(在学生交見)

金壹千円也

鈴置 正雄(昭19大政)

金壹千円也

吉田 一雄(在学生交見)

金壹千円也

加藤 常雄(昭10專二商)

金壹千円也

小林 喜六(在学生交見)

金壹千円也

木原 俊夫(昭18專一經)

金壹千円也

西丸 一雄(在学生交見)

金壹千円也

山本 晴雄(昭27學一商)

金壹千円也

松本 義男(在学生交見)

金壹千円也

半那 賢三(昭17專一經)

金壹千円也

角田 紀郎(在学生交見)

金壹千円也

鮎子田繁太郎(昭5大法)

金壹千円也

阪本 輝太(在学生交見)

金壹千円也

松村 昌一(昭12專二商)

金壹千円也

中村楢治郎(在学生交見)

金壹千円也

塩田 亮(昭26學一法)

金壹千円也

下川 茂(在学生交見)

金壹千円也

吉田真次郎(在学生交見)

金壹千円也

岩田 公平(在学生交見)

金壹千円也

角田彌三兵衛(在学生交見)

金壹千円也

中村梅次郎(在学生交見)

金壹千円也

貞包 超雄(在学生交見)

金壹百円也

高田 英次(在学生交見)

金壹千円也

莊田 林造(在学生交見)

金壹千円也

小計 金四拾萬壹百円也

金壹千円也

松永 徳治(在学生交見)

金壹千円也

合計金五百拾七萬貳千壹百円也

金壹千円也

杉村作太郎(在学生交見)

金壹千円也

(尚同日以降の分は次号に掲載します)

金壹千円也

馬場 田吉(在学生交見)

金壹千円也

金壹千円也

岩原寅次郎(在学生交見)

金壹千円也

金壹千円也

金壹千円也

金壹千円也

金壹千円也

関西大学創立七十周年記念拡充資金寄附募集以来、陸續と多額の御芳志をいただいてをりますが、前号までの御寄附者の芳名を、甚深な謝意を表しつゝ重ねてここに録します

関西大学七十周年記念

拡充資金寄附者芳名(一)

昭和二十八年十一月三十日現在(敬称略)

金百萬円也

久大紡績株式会社

金百萬円也

株式会社 竹中工務店

金五拾萬円也

昭(六)会

金五拾萬円也

吉本興業株式会社

金五拾萬円也

近畿電気工事株式会社

金拾萬円也

株式会社 大阪城口研究所

金拾萬円也

大和銀行天六支店

関西大学創立七十周年記念

拡充資金寄附募集に當つて

久井忠雄

日本の完全独立に通ずる関西大学の實質的な飛躍的發展は日本人であり且専務理事である私の悲願であり、祈し喜願である。母校卒業後二十ヶ年余何一つとして母校の為に尽した事のない私を専務理事の重職に推して戴いた数々の校友の事を思うとき私は異常の責任と非常の勇氣を感じる。知己の為に身を投げ出すは中外に通ずる道である。況んや私は校友である。私は私の後半生を母校に投げ出す光榮を担つた事に就て最上の喜びを感じている。考えてみますに我が母校の前途は多難である。特に大学の眞価を決定づける教授陣營の質量の強化と教育研究の物的設備の拡充を同時に解決せなければならぬ。然し是を同時に解決せなければ本学の發展はあり得ない。教授陣營の質量の強化は優秀教授の招聘。学外研

究員の派遣。助手副手制度の拡充強化。研究費補助。圖書の拡充整備等をその内容とし、教育研究の物的設備の拡充は天六校舎の増築、第一高等学校の移築、尚志館の増築、千里山校舎の大増築、学生寮の増築、千里山校舎の大増築、図書館の増築等をその内容とし、尚此の兩者を含めての重要問題である職員の待遇改善問題、更に校友と母校との心的連絡の根拠たる校友会館問題をその内容としている。而も是等は緊急を要するものであり、即ち淨財の喜捨に待つ所以である。健全なる本学の財政に三億円の借金を加える事を考へるとき私は一面充分の成算と自信を有するもの、他面不眠の責任を感じる。先づ勉より始めよ。私は微力を尽して校友諸先輩の御負託に応へるべく寄附の募集に全力を尽くしたいと思ふ。

(専務理事)

金拾萬円也

日本勧業銀行梅田支店

金貳拾參萬円也

内 十 期 会 議

金貳萬円也

野間秀泉

金貳萬円也

福岡彰郎

金貳萬円也

河内兼三

金貳萬円也

田中寿藏

金貳萬円也

竹沢喜代治

金貳萬円也

塚本義昭

金貳萬円也

東稔頼義

金貳萬円也

長谷川清一

金貳萬円也

松谷連哉

金貳萬円也

松下義雄

金貳萬円也

柳田栄次

金貳萬円也

山中輝司

金貳萬円也

松村源次郎(昭2專)

金壹萬五千円也

寺浦留三郎(昭10大)

金壹萬円也

藤原龍太推 薦

金七千五百円也

有賀司郎(昭6大)

金七千五百円也

中村定二(昭16專二法)

金參千円也

鈴木八郎(在学生交兌)

金貳千円也

竹内勳(昭15專法)

金貳千円也

松嶋章(昭21大)

和田信藏(昭8大)法

今井三太郎(在学生交兌)

高林鳳(昭25專一法)

井野仙周(在学生交兌)

高橋文惠(昭8專二法)

安西一郎(昭25專一)

小田静男(昭16臨專二)

岩崎卯一(学長 理事)

白川朋吉(理事)

久井忠雄(専務理事)

矢野文雄(常務理事)

宇佐美正理(理事)

木村健助(理事)

春原源太郎(理事)

宮島綱男(理事)

森川太郎(理事)

西村治三郎(理事)

西尾専太郎(理事)

原田市之進(昭39專法)

不動健治(昭9大商)

村岡道久(昭18專二法)

野口茂樹(昭4大法)

吉田幸藏(昭27專二法)

辻本徳充(在学生交兌)

春名卓次郎(在学生交兌)

藤井貞朝(在学生交兌)

坊岡敏郎(在学生交兌)

鍛冶卜久(在学生交兌)

上農市三郎(在学生交兌)

要房行(在学生交兌)

野瀬清(在学生交兌)

江南留吉(在学生交兌)

増田金一(在学生交兌)

竹原金吾(在学生交兌)

木村十三徳(在学生交兌)

合計金四百七拾七萬貳千円也

關西大学創立七十周年記念 拡充資金募集趣意書

わが關西大学は、明治十九年河内町の二隅に、大阪に於ける唯一の法律学校として開校したのでありますが、爾來六十有余年校友先輩の苦心と不断の努力に依つて目覚ましい發展を遂げ、今や一万数千の学徒を擁する私学の雄として、自他共に許す一大学園となりました。其の間幾多の俊英を輩出して、文化の向上、国家社会の進運に大きな寄与をなし得たことは、われわれの深く喜びとするところであります。学園發展のために尽瘁せられたそれらの先輩各位に対しては深甚の敬意と感謝を捧げずには居られません。

日本は、漸く独立国家として出発しましたが、国家の前途は甚だ多難であります。わが国は今後、文化国家として世界文化に貢献すべきであります。またそれによつて友邦の信に応えなければなりません。そのためには、教育の振興こそ最も緊要な問題であります。

本校は、大学の崇高な使命を自覚すると共に、歴史と伝統に立脚して、よくその声価を揚げて参りましたが、真理の討究、学の実化という理想に向つて、益々邁進したいと思ひます。本学が新学制に基き、各大学にさきがけて、大学院を設置し、修士課程並びに博士課程を開講したのも要は、その意味において将来の飛躍的な發展を意圖したからに外なりません。

本学は時代の趨勢に鑑み、曩に五ヶ年計画を樹て、諸施設の改善充実に着手致しました。千里山における大学院、大学ホール、経済学部 商学部 教養部教室の増築等はその一環として既に竣工しましたが、なお計画中の事業で、しかも緊急を要するものが種々残されて居ります。即ち、使用上すでに危険な状態にある、千里山法学部 文学部学舎の改築、二部学生を收容するための天六学舎の増築、学生に対する施設の一部として、千里山尚志館（学生食堂学友会部室）の増改築等であります。これらは逐次工事に着手し或は着手準備中ですが、また教授研究室は、現在六十五室を有するに至つたのでありますが、その大部分は、臨時的なもので、更に近代設備を持つ研究室の新築を構想中であります。これらが竣工の暁には学園は全く面目を一新すると思ひます。

こうした外観の整備と相俟つて、特に重要なものは、大学の真価を決する教授陣容の充実にあります。二十八会計年度においては教授十名、助

教授八名、専任講師五名、助手十七名の増員を予定しましたが、その大半はすでに補充致しました。

教職員待遇については、常にこれが改善に努め、本年度においても相金額の増俸を実施致しました。しかしなお現下の経済状態に即応すべき所期の目的を十分に達し得て居ないのを遺憾と致します。

教授陣容の充実に共に、研究用図書完備も大切であります。この点についても目下鋭意努力して居ります。

さて、上記の事柄は、いづれも緊急を要するもののみと考えられますが就中、学舎の増改築は、最早一日も遷延を許しませんので、これを早急に達成するため、昭和三十年度に創立七十周年を迎えるのを機会に、その記念事業の一部として実施することに致しました。しかも、建築費だけでも総額約三億円を要するのですが、戦後の経済的混乱により本学法人の経理も、種々困難な事情を加えており、従つて事業遂行の資金は、止むを得ず関係者各位その他の御援助により御繰出を仰がねばならぬ実情にあります。

大学の生命は不朽であります。が、学園の生々發展を希うためには、各位の学園に寄せられる深い愛情と熱意に俟たねばなりません。翼くは、学園の繁栄を念願する各位の御賛同を請ひ、この七十周年記念事業の完成を期したいと思います。各位の御賛同により本事業完成の暁には、学園はさらに新たな基盤に立つて飛躍的な發展を期し得ることを信じます。何卒御協力の程切に願ひ上げます。

昭和二十八年十一月

創立七十周年記念事業学舎増改築概要

一、工事費総額約三億三千五百万円

二、工事概要

- (一) 千里山法学部学舎改築(鉄筋コンクリート造)
 - 三階建 二千六百六十八坪 工費約二億六千四百万円
- (二) 天六学舎増築(鉄筋コンクリート造)
 - 五階建 三百七十八坪 工費約三千万円
- (三) 千里山尚志館増改築(木造)二階建 三百二十一坪 工費約六百万円
- (四) 關西大学第一高等学校の千里山外苑への移転新築(一・二階鉄筋三階木造) 三階建 七百八十五坪 工費約三千五百万円

關西大学学長 岩崎卯一
關西大学理事長 白川朋吉